

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300046		
法人名	社会福祉法人 鳳会		
事業所名	グループホーム ふじトピア		
所在地	静岡県藤枝市時ヶ谷417-2		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果市町村受理日	平成24年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2295300046&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の尊厳を重視し、安全で安心できる穏やかな雰囲気づくりを心掛け、きめ細かいサービスを提供すると共に、地域との連携を密にしていきます。日々の暮らしの中で達成感や満足感を感じてもらう場面を作り、心穏やかな生活が送れるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ふじトピアの法人職員全員が「理念カード」を所持している。グループホームの理念は毎朝唱和すると共に、各職員が自ら選んだ目標に向かって仕事に臨んでいることから、理念は浸透し職員の介護力の向上につながっている。ホーム長・職員・利用者の間には、理念でもある「輪・和・wa」が流れており、楽しい会話、皆で関わりあう、ゆったりとした生活があり笑い声が絶えない。昨年度、目標達成計画が立てられ、着実に取り組まれた成果も感じられる。ホーム長は「その人らしく、より豊かで穏やかな生活を過ごせるホームに」という思いから、家族の理解・協力を得ることに真摯に取り組んでおり、今後に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行ききたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホール・事業所内に掲示をし、朝礼時各自が、その日の目標を決め、声に出している。	法人職員全員が理念カードを持つことで、意識を高めている。また、事業所独自の理念を毎朝唱和しその中から1項をそれぞれが選んで仕事に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺での散歩や、近隣スーパーの利用及び買い物時の挨拶、防災訓練、夏祭り等の参加をしている。	散歩・花や野菜の栽培、スーパーへの買い物などを通して、日常的に地域の人々との挨拶やふれあいが行われている。公民館祭りには、利用者の作品を出展したり、お祭りや、防災訓練でのふれあいもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の防災訓練、夏祭りへの参加、スーパーへの買い物等を通し、グループホームの存在、あるべき姿を見ていただいている。民生委員等見学を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催で、ホームの状況、利用者の状況報告、それぞれの立場の率直な意見を頂いている。それを職員会議で報告、日々のサービスに活かすように努めている。	町内会長・地域包括支援センター職員、家族・ボランティアの方に委嘱状を渡して定期的に開催されている。事業内容をより理解していただく為に、写真にことばをつけて説明するなど工夫されており、丁寧な対応が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者から情報をいただいたり、報告を行うなど、随時連絡をとっている。地域密着型サービス事業者連絡会への参加。	市主催で、地域密着型サービス事業者連絡会が開催されるようになり、積極的に参加し、研修や情報交換・交流に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束ゼロ宣言をし、研修や委員会において、身体拘束を行わない為の認識強化を実施している。	身体拘束0宣言をしており、法人内研修として全職員を対象に1年に1度実施されている。今年度は、ホーム長が講師役でもあり、事業所内の意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として、研修や委員会において虐待を行わないための認識強化を実施している。身体状況カルテをつくり、把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として、専門担当者から学んだり、研修を受ける機会があり、必要な場面での活用に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、不明な点がないよう説明している。 解約時についても不安な点がないよう詳細な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情受付窓口の説明、面会時の面会記録簿への要望、苦情等の記入。 意見箱の設置。	意見箱も設置され、面会時の記録簿には要望苦情欄を設けてはあるが意見は出ていない。面会の際にはできるだけ話を聞くようしており、運営に反映させている。さわやか相談員の訪問を受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のカンファレンス、職員会議、伝言ノート等で様々な意見が上がり、職員間で話し合いがなされている。	カンファレンスや職員会議は、定期的で開催されており、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な昇給、資格手当などによる処遇改善、自己啓発の場としての研修参加への奨励に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、施設外の研修の機会には、参加を促し外部研修の参加は出勤扱いとして配慮している。 必要な研修については費用の負担をし、スキルアップをはかっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて交流する機会がある。同業者の訪問を受け入れ、印象や意見を得て、サービス充実へ的一端とさせて頂いている。地域密着型サービス事業者連絡会への参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅訪問し、関係を築くアプローチをしながら生活の様子、雰囲気、間取り、ご家族との関係を確認し、不安なく入所でき、その後のケアに活かせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学希望、問い合わせがあった時は、見学をしていただき、困っていること、不安なこと、求めていることなどを伺い、応じている。入所後相談があった場合は、管理者・ケアマネに報告し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとしての主旨説明をし、ご理解頂きながら、その方の状況に応じた他施設・他事業所のサービスの選択肢があることをお伝えし、説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴をよく理解するように努め、その方らしい暮らしを出来る限り継続できるよう取り組んでいる。その中で、利用者様から教えていただけること、共に暮らす対人の関係の支え、支えられる機会を得ている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご協力、ご理解を頂き、またご本人とご家族との関係性を知るうえで、ご本人を支援していく力をいただいている。面会時に日々の様子をご報告し、ご家族との外出等の場面のサポートをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪ねてこられる環境をつくり、友人との会食、親類、馴染みの関係を継続できるよう、ご家族の協力を得ながら、支援している。	利用者それぞれの馴染みの関係や馴染みの場所などを把握し、できる限りの支援に努めている。華道展での仲間との出合いや、教師と教え子との出合いの場、また、お正月の里帰りなど、家族とも連携して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について、日々のカンファレンスの中で職員間で共有し、可能な限り程よい距離をお互いに保てるように留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方に時々連絡を取るなどして、その後の様子をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし振り、状況から、本人の意向を導き出し、カンファレンスにて職員全員が共有している。モニタリング表を活用し、一人ひとりにあった、計画的で継続的なケアを活かしていく。	入居時、まず家族にセンター方式に記入してもらい、それをもとに気付いた事を書き足している。利用者2, 3人に対し、2人の担当者を決めており、寄り添いながら、思いや意向のきめ細やかな把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族のご協力を得ながら、必要事項の聞き取り、確認、センター方式の実施から状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状を介護記録にて職員全員が共有し、カンファレンスでの話し合いで総合的に理解するよう努めている。モニタリング表を活用し、一人ひとりにあった、計画的で継続的なケアを活かしていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題について、利用者本人、ご家族の意向、意見を踏まえて、カンファレンスを行い、また利用者本人やご家族、医師などとの話し合いに反映させている。	日ごろの会話や担当者会議を通して本人や家族の意見を聞き、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、現状に即した介護計画を作成している。体調が変わった場合は、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、健康管理チェック表、申し送り事項一覧表、日報などに日々の状況を記入し、毎朝のカンファレンス、申し送り、月に一度の職員会議にて情報共有、実践報告、改善等を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所時の系列事業所との情報交換、系列母体共同の祭り等のイベント、系列デイサービスのレクリエーションへの参加、系列医務室への相談などを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの定期的な訪問で、協力をいただいている。 地域イベントへの参加や近隣スーパー等の利用をし、外出の機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者に主治医、かかりつけ医があり、ご家族の協力を得ながら、医療を受ける援助をしている。	ホームで受診表を作成し状態を知らせることで、かかりつけ医との情報共有を図り、適切な指示を得ている。急変時に備え、携帯電話番号を知らせてくれたり、往診に応じてくれるなど、良好な関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列母体の医務に必要に応じて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、管理者・ケアマネが病院に出向き様子確認と退院に向けた各関係者との打ち合わせにも同席している。退院後、速やかに以前の日常生活に戻れるように、日常生活上の留意点、確認等をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に対し、契約時に緊急時並びに重度化時の対応の意思確認に努めている。医療処置がなければ受け入れている為、対応出来る範囲の明確化に努め、ご本人やご家族の意向に沿った支援をしている。	法人施設長や管理者は「看取りは日常の介護の延長線上にある」という考えをしており、看取りに対して前向きである。まだ看取りの経験はないが、職員一人ひとりが死生観を持ち、必要な知識を得るため努力している。	引き続き終末期における知識や介護力を習得し、対応力の向上に努める事を期待するとともに、看取りの経験のない職員のためにも、「看取りに関するマニュアル」を作成する事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルや緊急対応の書籍をスタッフルームに常設している。緊急連絡先と手順を整備している。初期対応の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の防災訓練、系列施設と共同の防災訓練の実施がされている。備蓄品の確保。運営推進会議を通して、町内の方々との協力をすすめている。	昨年の東日本大震災後、毎月ホーム内で防災訓練を実施しており、利用者たちは防災頭巾を被る事にも抵抗がなくなった。夜間の訓練実施、災害後のマニュアル作成など、災害に対する意識の高さが窺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室の際の声かけや書類の管理、記録の方法など取り扱いに留意している。排泄の確認時も他の方にもわからないように、言葉かけに注意している。	個人ファイルの表紙には個人名を書かず、職員のみが通じる言葉で記している。居室入口にかけられている入居時に持参した暖簾の使用は、プライバシーを守る事にもその人を尊重する事にも繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いすることなく、本人の希望を確認して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外出、レクなどの参加には、個々の意見を確認して行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に、好きな衣類を選んでいただいている。衣料品の購入は、一緒に買い物に出かけている。定期的な訪問美容を受けている。お化粧をする方の品が切れないう見守っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなどできる事をお手伝い頂き一緒に行っている。	それぞれのテーブルに職員も座り、食事を共にしながら、優しく会話し、さりげなく介助もしている。足の悪い利用者が、率先して下膳をしようと立ち上がり、職員が自然に付き添うなど、行き届いた支援がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、嗜好、体重、運動量、身体状況により、個別に盛付け量を調整し、摂取量の記録を行なっている。水分は食事の時やおやつ時間のに加え、入浴後にもすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。外出後のうがい、手洗いは徹底されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に都度記入し、誘導の必要な方々へは、適切な時間に排泄の誘導や介助ができるよう配慮している。その方が出すサインを見逃さないように努め、トイレに行く事が大切な生活リハビリととらえている。	入居前は常時おむつ使用だった利用者も、入居後は日中はリハビリパンツか、布パンツ使用になり改善された。今現在日中おむつ使用の利用者はおらず、自立に向けた支援が着実に行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の状況をチェックし、記録に残している。食事や飲み物は、乳製品、野菜などの摂取を心がけている。便秘がちな時は、処方された下剤の服用だけでなく、腹部マッサージや起床時の飲水を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴しており、午前・午後の希望があれば応じている。	羞恥心から男性や若い女性の介助を拒む利用者には、本人の意に添う職員が介助するなどして、心地よく入浴できるよう支援している。入浴後は必ず全員に保湿クリームを付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースに合わせ、自室で過ごしたり、ソファで横になったり出来るように支援している。夜間良眠出来るよう、日中の活動量や、温かい飲み物、清潔な寝具、室温湿度の環境整備に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬包の管理、内服支援は、何重にもチェックする仕組みを確立している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買物、洗濯物、菜園、ドライブ、系列デイサービスの催し物への参加、季節の行事、生活歴に合わせた役割や、気晴らしになるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物をはじめ、散歩やドライブの機会を出来るだけ設けている。遠出をする場合は、地域ボランティアにお手伝い頂いている。	2日に1回は買い物に出掛けており、近くのドラッグストアに歩いていく事もある。利用者の希望で、デパートに買い物に行ったり、華道展に行ったりと、一人ひとりの希望に沿った支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に小口の現金をご家族からお預かりし、必要時に使用している。 外出時には、財布を持っていき、その中から支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった場合などには、こちらでおつなぎした上で、でて頂く支援をしている。 ハガキや便箋を用意し返事が書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間は、季節の花や歳時、写真の飾りつけなどを行い、季節感を出来るだけ取り入れるよう工夫している。季節に応じて、室温湿度の調整をしている。	適度な広さのリビングや通路には、利用者と共に作ったという季節の飾りや写真がにぎやか過ぎることなく飾られてる。居室入口にかかけられている各々が持参した9枚の暖簾が、廊下を楽しく柔らかくする事にも効果を発揮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居間の中に、それぞれが気に入ったソファなどのスペースがあり、自由にくつろいでいる様子が見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、馴染みの家具等を入れていただけるようご家族に説明し、それぞれの居室作りをしている。大切な方の写真やアルバムなど、できるだけ個性のある空間をつくり出せるよう、工夫している。	若かった頃の写真や、家族の写真など、写真の飾り方にもその人らしさが出ている。警察学校の寮母を20年間していた頃に貰った感謝状を飾っている利用者も居り、その人らしい居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレがある為、その往復も歩行運動として機能している。 居室入口に表札を掲示したり、トイレの場所を表示しわかりやすい工夫をしている。		